

欲

の心をおこされにけるにか、さて家にかへりてこのぞうながくた・んもしをのこゝもをんな
ごもありともはかへしくしてはあらせじ、あはれといふ人もあらば、それをもうらみんなどち
かひてうせたまひたれ、略下

〔類聚名義抄〕六心音欲慾子カフ。食欲

〔同九〕欲余蜀反、

〔書言字考節用集〕八言辭ヨクシヤ「欲心」ヨクシヤ 欲情 欲念 ヨクシヤ 欲得

〔瑤囊抄〕物ヲヨクボルト云ハ何ノ字ゾ、欲々ト書也、欲々シキナド云同事歟、欲ノ字ヲホル共、ホ

シ、共ヨム也、ヨクボルトハ訓音ニ重説スル詞也、欲ノ字ヲ万葉ニハホリトヨム、ホリホルハ同
ジカルベシ、万葉集ニ雨ヲ悦ブ歌ニ、

我ガ欲シ雨ハ降來ヌカクシアラバコトアゲズトモ年ハ榮エム、ト云ヒ、ホシカリシ雨ハ降タ

リト悦也、コトアゲズトハ、事々シク不祈ラ共ト云也ト云リ、欲ヲバ遊仙窟ニハフクツケ。共讀
ム、

〔徒然草上〕世の人の心まどはす事色。欲にはしかず、人の心はをろかなる物かな、匂ひなどはかり
の物なるに、しばらく衣裳にたきものすとしりながら、えならぬ匂ひには、必心ときめきする物
なり、欠米の仙人の物あらふ女のはぎのしろきを見て、通をうしなひけんは、誠に手あし、はだへ
などのきよらに、肥あぶらづきたらんは、外の色ならねばさもあらんかし、

〔五常訓〕四禮

飲食と男女と財寶とは、人の大欲の生ずる處也、故に、およそ人の過惡の出来るは、多くは此三よ
り起る、心のこのむに打まかせてはあやうし、道理にそむき、わざはひ生ずる本なり、此三をこ
のむは、人情にして、なくんばあるべからず、されど禮を以て節せざれば、これを用る理を失なひ
て、必大慾生じ、惡になる、故に禮なければ、人道不立して、禽獸の行に同じ、